

滋賀の文化情報誌
デュエット

Duet

2018 冬 vol.126

特集

湖北野鳥センター 30 周年

新撰 淡海木間撰 70

ローリエの枝

INFORMATION STATION

催し案内 2018 冬

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内



湖北野鳥センター内。備えつけの望遠鏡で湖岸を観察できる

特集 湖北野鳥センター 30周年

全国でも有数の水鳥の生息地として知られる湖北水鳥公園に、湖北野鳥センターがオープンしてから30年を迎えます。昨年11月下旬に山本山に飛来したオオワシも発見から20年目ということで、開館当時のようすとオオワシの生態についてお話をうかがいました。

湖北野鳥センター(左)と琵琶湖水鳥・湿地センター(右)。2階の通路でつながっている



湖北野鳥センター

住 所 長浜市湖北町今西

連絡先 TEL 0749 (79) 1289

休 館 日 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

入 館 料 大人200円、小中学生100円

アクセス JR北陸本線「河毛駅」からコミュニティバスで約20分／
北陸自動車道「長浜IC」から湖岸道路を北へ車で20分、
「木之本IC」から約15分

取材／編集部 写真／辻村耕司

沖合に竹生島を望む湖北水鳥公園。昨年10月の台風21号襲来で浮き島の木が倒れた



ここは安全だという鳥たちの共通認識を ずっと守りつづけることが、センターの 目標です。

湖北野鳥センター専門員 植田 潤さん

「誰かいなか」と相談を受けたので、「僕、僕がいます」と

最初に申し上げておくとインタビュー
アーの私は、このセンターがある地と同じ
小学校の学区で生まれ育っています。

植田 じゃあ、まだなかった世代ですね。

湖岸道路もない。山本山との間の道を
通って尾上の浜で泳いでいた世代です。

植田 僕と同世代ですね。僕は生まれは京
都ですけど、小学4年生で大阪に引っ越し
て、5年生から鳥を見始め、6年生の頃
には月に1回ほど小遣いをはたいて湖北に
来ていたんですよ。

どこから鳥の観察をしていたんですか。

植田 あそこ^{ベニあめ}の紅鮎^{あか}から見ていたんです。
先代のご主人によくしてもらいまして、赤
毛氈の上に上がって、奥の間で見せても
らっていたんです。

こちらのセンターに来られたのは。

植田 平成20年(2008)4月からです。
それまでは栗東の中学校の理科の教員をし
ていました。野鳥センターの職員だった清
水幸男^{みずゆきお}さんがあと4〜5年で定年になると
いうことで、湖北町が人を雇うことにした

んです。僕はちょうど担任だった3年生を
送り出すところでした。

うちの家族も、僕の鳥好きを知っている
ので、一番好きなことがお金になるってこ
とはめったにないと了解してくれ、単身赴
任で働き始めました。火曜日の定休日とも
う1日が休みなので、火・水と休んだ時
2〜3週に一度のペースで家には帰ってい
ます。

通勤できないこともない距離なんです
が、スタッフが少ないのと、来館者の方といっ
しょにその日の状況に合わせて回るシステ
ムなので、離れられないんです。南に2km
ぐらいのところに、珍しい鳥がいるといっ
た情報がもらえると開館前の早朝や閉館か
ら日没までに調査することになるのです。

野鳥センターは昭和63年(1988)
の開設で、来年(取材は昨年12月)がちょ
うど30周年だそうです。

植田 開設の数年前、県が琵琶湖岸のどこ
かに水鳥公園をつくらうという計画を立て
たんです。地元^{ちよん}の了解を得るために琵琶湖

に面した町や市に声をかけて
手をあげたのが新旭町(高島
市)と湖北町(長浜市)と草津
市の3つでした。

3つとも非常に前向きだっ
たのでコンペが行われて、湖北
町では清水さんががんばって
中学生だった僕は住んでいた
ところに近い草津市にほしく

※1 紅鮎 昭和33年(1958)開業の老舗旅館。
※2 清水幸男 (1951〜) 滋賀県生まれ。
昭和58年(1983)に湖北野鳥の会を設
立(現、会長)。湖北野鳥センター開設時に
専門員となり、琵琶湖水鳥・湿地センター
開設時に職員を兼務。湖北野鳥センター所
長を経て、平成23年退職。

※3 ラムサール条約 1971年にイランの
ラムサールで制定された「特に水鳥の生息
地として国際的に重要な湿地に関する条約」。

て、そつちで関わったんです。

その結果、湖北町に決まり、尾上から
南へ約2kmの琵琶湖岸が湖北水鳥公園にな
り、野鳥センターもできた。新旭町にも水
鳥観察センターができましたが。

植田 そのままの流れで、新旭町は自前で
翌年の平成元年(1989)につくったん
です。草津市には、代わりに琵琶湖博物館
の計画が県から提案されました。そうして
手をあげた自治体にはすべて自然系の施設
ができたんです。

当初、清水さんは別に仕事をお持ちだっ
たので、土日のボランティアスタッフ、運
営補助員みたいなかたちで来ておられまし
た。それから今度は、平成5年(1993)
に琵琶湖が「ラムサール条約」の登録湿地
になったので、国がどこかに湿地センター
をつくりたいという計画を立て、湖北町に
「誰かいなか」と相談が来たので、清水
さんも、「わし、わしがやる」と(笑)。そ
の時はまだ、館長ではないんですが、実質
上の責任者として動めだされました。

湖南にいた僕は悔しかったんですけど
(笑)。当時、県内唯一の野鳥観察施設でし
たし、今もですが、鳥好きが集まる場所
なので、湖西にこういう鳥がいるといった
情報でも必ずここで一度話題にのぼりま
す。通えば最新情報がだいたい把握でき
し、観察会の集合場所になることも多かつ



プロフィール

うえだ・じゅん / 1969年、京都生まれ。
滋賀県内中学校の教員を経て
2008年より現職。一番好きな鳥
はイカル。「群れをつくる鳥で、細
かいことは気にしない感じが、お
おらかでいいなって思ってた(笑)」

たので、しょっちゅう来ていました。

ほら、ちょうどいまカモが飛んで入ってききましたね。あれはたぶん琵琶湖のどこかで船が何かで追い出されて、一時待避にこへ入ってきたんですよ。

この一帯が水鳥公園になってから、あそここのテトラポッドから内側には、基本的に地元の漁船も入らないようにしていただいています。それがわかってきているみたいで、コハクチョウも降りていた田んぼに人やイヌ、キツネが来るような危険なことがあると必ずこへ帰ってきます。ひとまずここでちよつと落ち着こうみたいな場所として鳥たちに認識されています。ここは安全だという鳥たちの共通認識をずっと守りつづけることが、センターの目標です。

捕るために守られていたんです。

取材用に昔と現在の航空写真をプリントしてきました。この辺が飛来地ですね。

植田 当時、この道からここまでの湖北町の境界のうち、ここからここまで湖岸延長の80%ぐらいを湖北水鳥公園にしたんです。それで他の地域は負けたんですよ。

まだ根に持っているんですか(笑)。

植田 すごくいいことなんです。草津市はそこまでは市内の足並みがそろわなくて。湖北町は鳥の種類もですけど、尾上から今西、延勝寺、海老江の4大字がみんな了解したのがよかったんです。

——1975年撮影の航空写真でいうと、私などは、田んぼの中をぬけて集落の東側につながる道しか使っていませんでした。西の琵琶湖岸一帯は未知の空間でした。

植田 ここ(赤矢印)を無理したら、湖岸近くまでまっすぐ出られたんです。こっちはおもしろかったんですよ。懐かしいです。当時から、この一帯が水鳥が集まる場

撮影に来られると、どんどん近づきたくなるのでヨシ原の中に入ろうとする人もいらつしやいますが、それはやめてもらっています。この現在の距離でも、鳥が普通にしているっていうのは特別なことなんです。他の地域では見られない光景なんです。

この距離は近いですよ。

植田 ヒシクイは、とても警戒心が強いので、あの距離だと普通は飛んで逃げます。ちゃんと学習していて、国内各地で、同じ日本人だけ種類が違うようだ。警戒するべきか、しなくてよいかわ分けているみたいですね。

反対にロシアでは狩猟鳥とされていて撃たれてしまうので、非常に警戒心が強いんです。

所になっていたのでね。

植田 地元の方がよかったんです。冬の漁で捕れる魚はイサザですが、深いところにすんでいて寒い中の漁は大変なんです。それに比べると簡単に手に入るのが、カモやガンなどの水鳥だったわけです。

だから、カモとガンになるべく来てもらうように、湖岸一帯をセッティングしておいたんです。鉄砲でほとんど撃たなかった。他の地域では、猟銃が普及したらバンバン撃っちゃったから、水鳥も来なくなりました。

この辺では、「流しもち」*₄と呼ばれる漁で、「とりもち」*₆をつけた藤づるを湖面に浮かべ、くっついて逃げられなくなった鳥を捕っていたわけです。

植田 音を出さず、こそつと捕って、こそつと回収して帰るということをずっとしていたんです。

——私が父親から思い出話として聞いたんですが、父が中学生の頃(昭和20年代)、

※4 ヒシクイ カモ科の鳥で、ガンの仲間。全長80cm程度。体は褐色。日本には冬鳥として飛来。ヒシの実や草を食べる。

※5 イサザ ハゼ科の魚。全長5〜8cm。琵琶湖の水深50〜60mのところに暮る。

※6 とりもち さおの先などに塗りつけて小鳥や昆虫などを捕らえるために用いる粘着力の強い物質。モチノキなどの樹皮から作る。獲れた鳥には傷がつかないので、鉄砲でしとめたものより高値で取り引きされた。



↑昭和30年頃、「流しもち」を巻き上げてカモを捕る漁師
『岩波写真文庫180 琵琶湖』(岩波書店 1956年)より

尾上の同級生の家に遊びにいった、「こんにちは」と引き戸を開けたら、土間で同級生が縄(藤づる)についた羽をむしっていた。家の仕事の手伝いをさせられていて。

植田 そうです。大切な栄養源であり、収入源。夜中寝ていると、9月の終わりにガンが頭の上を鳴きながら飛んで、こへ下りてくるんです。「そら来た」と、家族みんな起こされて、「もちの準備をせい」言われて、みんな準備をしたという話です。カモは食材として、一番近い都会である長浜の名物になっていました。



昭和50年(1975) 9月10日撮影
提供: 国土地理院



平成23年(2011) 9月27日撮影
提供: 国土地理院

「当時

は子供だったから見てるだけだったが、今となつては孫の世代に残しておいてやりたかった」という思いを形にしたいとがんばっておられます。早崎内湖が今もあれば、野鳥センター前よりも、もっとすごい飛来地だったのとおっしゃいます。

少し南の長浜市早崎町(旧びわ町)の場合

は干拓されてしまったので、「埋めへん方がよかった」といつも嘆かれる方がいます。現在では早崎内湖再生事業として再生させる計画があります。

「当時

は子供だったから見てるだけだったが、今となつては孫の世代に残しておいてやりたかった」という思いを形にしたいとがんばっておられます。早崎内湖が今もあれば、野鳥センター前よりも、もっとすごい飛来地だったのとおっしゃいます。

植田 捕るために守られていたんです。そういうよさがあります。同じ琵琶湖でも湖南の方は特にそうですが、このような遠浅の湖岸は全部埋め立てられてしまいいま

鳥は飛ぶことをあまり苦勞だと感じないんです。

「ここからは東の山本山に飛来するオオワシについておうかがいします。「山本山のおばあちゃん」と呼ばれていますが、鳥はかなり長生きなのです。」

植田 ツバメなどは、5〜6年と短命です。オオワシは動物園で52年生きた例があります。これは、風邪をひいたら風邪薬を飲ませてもらえたりするので、野生の場合とはかなり違うでしょうが。

「この「おばあちゃん」は、見つかったから20年目なのですが、最初に見つけた時点で何歳だったかわからないんですよ。成鳥になるのにオオワシは6年かかりますから、最低でも26歳です。成鳥になってからは30歳でも40歳でも区別がつかないので、便宜上は「おばあちゃん」と呼んでいます。



↑湖北野鳥センター内の山本山の方角（東）に窓がある部屋。中央がオオワシの映像が映し出されるモニター、右は原寸大オオワシの模型

じつは彼女は2代目で、その前の初代のオオワシが、野鳥センターができてからしばらくした平成3年（1991）に見つかりました。それから、平成10年（1998）になって、葛籠尾崎の木にとまっているもう一羽が見つかったんです。それが現在の彼女です。初代が平成15年（2003）1月に亡くなり、彼女が山本山に移動してきて2代目になりました。

死亡というのは確認されたんですか。

植田 白くて大きな羽をカラスがくわえて飛んでいました。ハクチョウの羽でもそこまで長くないので、オオワシの尾羽根以外にありません。地面でも羽が何枚か見つかりました。

（ライブ映像のモニターを見ながら）下を向いてもぞもぞしてますね。あそこから琵琶湖の湖面を見て魚を探しているんです。

視力が桁違いによいんですね。

植田 このセンターの前のブラックバスを獲りに来ることもあります。ここで僕が青い服を着てしゃべっているのも、「またしゃべっているわ」ときくと見えています。

繁殖地はサハリン（樺太）北部からオホーツク海沿岸、カムチャツカ半島海岸部と、非常に限定されています。越冬地が北海道と青森の一部、北朝鮮ぐらいまでです。

それより南だと。

植田 定期的な飛来地となっている場所として、長野の諏訪湖と日光の中禅寺湖、それから茨城県の涸沼、鳥取県の湖山池があります。北が流水で閉ざされると、少しずつ南に南下する個体が出て、それらは富山、石川、千葉ぐらいまで来ます。彼女はなぜか秋に琵琶湖に来ています。

同じ猛禽類でもイヌワシは同じ場所か

※7 オオワシ タカ科の鳥。全長約95cm、翼を開くと240cm程度。全体に黒褐色で、肩や尾は白く、くちばしは黄色。冬鳥として日本に渡来。

※8 イヌワシ タカ科の鳥。全長約85cm。全身茶褐色で頭の後ろは金色。ノウサギなどを捕食。日本では北海道・本州（滋賀県をふくむ）の山地にすむが数は少ない。



↑オオワシの繁殖地と越冬地

ら動かない留鳥ですが、何が違うのですか。植田 行動の中心になっているのはエサです。オオワシは主に海洋性の魚類などの肉（鳥類も含む）をエサにしています。北の地方で繁殖するのは、その時期にサケ科などの魚がとても豊富だからです。けれど、冬になると全部結氷して閉ざされてしまうので南に移動するんです。

イヌワシの場合は山で生活しています。山だと冬でもウサギや他の鳥類をエサにすることで暮らせるので動かない。寒さに強い、弱いはまったく関係ありません。人間からすると不思議ですけど、鳥は飛ぶことをあまり苦勞だと感じないんです。一番近い函館から滋賀県まで直線距離で600kmぐらいありますが、さほど苦ではないかもしれません。

また、イヌワシの場合、子供を育てるのに2〜3年かかります。山での狩りはテクニックが必要なので教える期間が必要なんです。オオワシの場合は、6月に生まれて

オオワシの行動記録 (2017年11月26日～12月7日午前 ■=食事)

日時/曜日/天気	時刻	観察された行動
11月26日(日) 晴れのち曇り	6:20	山本山で初確認!
	10:30	枯れ木から飛び、今西沖でブラックバスを捕らえる。
	10:58	ネグラ下付近で食べている。
	11:25	枯れ木にとまる。
11月27日(月) 晴れ	14:59	ネグラ入り (ネグラ下の広葉樹林へ)。
	7:00ごろ	枯れ木にとまっている。
	7:30ごろ	センター沖で魚を食べる。
	12:26	センター前へ飛び。
	12:31	センター沖のポールにとまる。
	12:38	オオクチバスを獲り、テトラポッド上で食べる。
11月28日(火)	13:08	ネグラ下の広葉樹に入る。
	6:10	すでに枯れ木にとまっている。
11月29日(水) 霧雨	7:00	尾上浜へ飛び、もどって何か(鳥らしい)を食べた。
	8:00	枯れ木にとまっている。
	11:00ごろ	濃霧によりほとんど見えない。
11月30日(木) 曇り	16:10	不明。
	8:00ごろ	センター前へ飛んで、15分ほどしてもどる。
12月1日(金) 曇りのち雨	14:58	ネグラ入り (ネグラ右下)。
	7:50	センター前で魚を食べる。
	8:49	山本山の枯れ木にもどる。
	14:15	松の木にとまりなおす。
12月2日(土) 快晴	15:20	ネグラ入り (ネグラ右下)。
	7:00ごろ	ネグラからセンター前へ飛び。
	8:08~12	尾上上空を飛んで山本山へもどる。
	8:12	センター沖に飛び、トビからエサを奪う。
	9:16~18	枯れ木にもどる。
	13:57	センター沖の柱にとまる。
12月3日(日) 快晴	14:11~14	ネグラ入り。
	6:00	中腹の松の木にいる。
	9:20	1本下の枝に降りる。
12月4日(月)	16:26	ネグラ入り。
	8:00	松の木にとまっている。
	13:50~55	北へ飛び何も持たずに枯れ木にもどる。
12月5日(火) 曇り	16:33	ネグラ入り。
	正午ごろ	魚を食べる。
12月6日(水) 曇り	14:50	尾上浜でオオバンを獲って山にもどる。
	8:00ごろ	高い松の木にとまっている。
	10:45~55	低い広葉樹でブルーギルを食べている。
	12:40	松の木にとまっている。
12月7日(木)	14:45	ネグラ右下にいる。
	7:02	ネグラから枯れ木に出ている。[取材日]

から数ヶ月で幼鳥を送り出して「さようなら」です。狩りの仕方は教えません。大量のサケが遡上してくるので、エサに困らないという環境に適應した育て方なんです。11月になったら、近隣の河川や湖岸は幼鳥のためにあけてあげて、親鳥は南の方に渡ります。

—— ほぼ11月下旬に飛来するんですね。

植田 これまでに2回、12月に入ってから年がありました。その年は11月下旬にかなり荒れた天候が続いて来られなかったようです。

来るのは、気候が安定している日を狙っているようです。今年は11月26日に来たんです。

ロシアの研究者が「彼女は狩りがうまい」と言っていました。

—— 平日ですが晴天なせいもあって、たくさんの方が撮影に来ています。それなのに、ほとんど木から動きませんね。

植田 オオワシはすごく省エネな鳥です。こちらのホワイトボードに少しでも飛んだら書いてあるんです。「左の表参照」

今日(12月7日)は午前7時2分にネグラから移動してきたあと、いっさい動いていません。時には2日間、エサを食べていないこともあります。エサが見つからない

ですが、26日の気候は北海道からここまでずっと安定していました。

—— 彼女は1羽で来ているんですか。

植田 1羽です。ロシアの研究者に聞いたところ、普通は決まった雄と雌でいっしょに巣に帰ってくるのだそうです。だから別の場所ですぐいの雄が越冬していて、彼女は、どこかで彼と落ち合って繁殖地へ帰っていくようです。北へ帰る日も毎年ほぼ同じです。

—— カレンダーが頭に入ってるみたいです。

植田 よく言ってるんです。半年別居、半年同居が夫婦生活が長く続くコツだと(笑)。

※9

ネグラ 鳥類が眠るための場所。卵をあためヒナを育てるための巣とは異なる。スズメやツバメは集団のネグラを持つ。

れば、いつまでも待つわという感じですよ。

—— 飛来した当初はわりに活発ですね。栄養補給のためか、食べた日が多い。

植田 今日でも狩りはしないんじゃないかと思えます。天候が悪かったり、魚がいなときは我慢です。気が長い鳥です。

湖面が波立つと魚が見えないのではないのでしょうか。そういう時は水鳥に切り替えてエサにします。弱ってるのがわかるのか、行けそうな水鳥がいると狙います。オオバンやカイツブリを狙うんですが、彼らは潜って逃げる時、水中の姿が上空から丸わりの泳ぎをするので、狙いやすいのかもしれない。

以前、ロシアの研究者が来た時、オオワシの中で水鳥を狙う鳥はめったにいないので、「彼女は狩りがうまい」と言っていました。雌で狩りがうまいのは珍しいです。

——雌の方が雄より大きいんですね。

植田 大きい雌の方が俊敏な動きは苦手とされているんです。だから彼女は「おばあちゃん」と呼ばせてもらっています。「ちょっと恐いおばあちゃん」ぐらいな感じですかね（笑）。

——観察上の注意点はありますか？

植田 道から見てる分にはどれだけ近づいてもあまり気にしていません。時どき大きなエサを獲てくると重くて上の枝まで上がれずに、低い位置の枝にとまることがあり、人が大勢集まったのですが、気にせず食べていました。普通、猛禽類は隠れてエサを食べるのですが、彼女はわざわざ人間が見ているところに持って帰ってきて食べます。

——個性的なんですかね（笑）。人間が原

彼女は寝姿を絶対見せてくれません。

（山本山の麓に移動し、望遠鏡をのぞきながら）

——因で姿を見せなくなったことは？

植田 あります。あの山の斜面を登って、同じ標高から撮影しようとした人がいて、その時は一週間ほど対岸の山に行って帰ってきませんでした。道路で見ているかぎり、人間を気にしないんです。撮影者のマナーも以前に比べるとよくなりました。

彼女のファンは多いんですよ。茨城県から毎年新幹線で米原まで来て、米原からタクシーでここに来て、麓から小さい双眼鏡でのぞいて、パンパンと拍手を打って帰るおばあさんがいます。ご自身の人生と重ねておられるのか。著名人では小泉純一郎元首相も一度見に来られてから、毎年「あれは元気にしてるか？」と気にされているようです。それでは、外に出て近くから見てみましょうか。

植田 あつ、いまおもしろい行動してますよ。こっちの足をこうニューンと伸ばして



↑ [上] いつもの枯れ木にとまるオオワシ
[下] オオワシにカメラを向け飛翔を待つ人々

るでしょ。疲れてきたんでしょ。7時間も同じ姿勢でとまってるから。いま、ストレッチ中みたいですね。あつ、いま僕を見てます。認知してもらいかけてるんですよ。清水さんは完全に認知されましたね。清水さんがここまで来て解説を始めるのとジロジロ見ていました。

——県外からの人も多いんですか？

植田 ほぼ県外です。7÷8割は県外の方。1、2、3、4、5、6……17、18、19……26、27……。30人ぐらいいらっしゃいますね。

——数えるのは得意ですか。

植田 はい。なんか、数えなくなるんですよ（笑）。あの辺は朝からいらつしやる方たちですね。あそこの方とか、僕が朝7時に来た時、挨拶しましたから。

撮影者A いま2時半だから、あと一時間ぐらいですか。3時半ごろにはネグラに帰って終わりですよ。もう、ここまで待ったら最後までいますよ。

植田 ああ、片足でとまっていますね。やる気ないですね。

——ネグラは、どこにあるんですか？

植田 南西へ伸びる尾根の向こう側に決まった場所があって、そこにスツと入って終わりです。ここは北風が強いんですが、春先になると南風も吹くんですが、南北の風がほとんどなんです。尾根の向こうに行くと北風を防げるので静かなんですね。よくわかってるんですよ。そして、彼女は寝姿を絶対見せてくれません。今の姿勢と同じように木にとまったまま、猛禽類は背眠（はいみん）といってクチバシを背中にくずめて眠るはずなんですけど。

——やはり飛ぶ姿は見るのができませんでしたが、本日は楽しいお話をありがとうございました。

（2017・12・7）

ローリエの枝 ルネ・ラリック

成田美術館 副館長

成田充代

1921年にシールペルデュ（蠟型鑄造）で制作されたこの花瓶は、ちょうど手のひらに収まる大きさで、一見シンプルな小品にも見えますが、手には天然石のようなあたたかな感触が伝わります。裾文様にやわらかに溜まった光が木漏れ日のようにきらめきローリエ（月桂樹）の葉に生命感が溢れ、シャンパーニュの風にそよぐ葉音が聞こえてくる感覚にとらわれます。当代一流の蒐集家を感じさせた才能の深さを感じさせられる一点です。眼と手で愛でるオブジェ・ダールの喜びを知り尽くしたコレクターのための逸品と言われています。

この作品は、19世紀末から20世紀初頭にフランスで活

躍し、エミール・ガレ、ドーム兄弟と並びガラス工芸家の中で五本の指に入ると言われているルネ・ラリック（1860～1945）の作品です。

フランスの北東部シャンパーニュ地方（マルヌ県）アイに生まれたルネ・ラリック、彼が生を受け母の故郷であるこの地は、シャンパン（シャンパーニュ）の産地として知られ、丘陵に見渡す限りブドウ畑が広がる自然豊かな村でした。パリに居を構える一家は、しばしば母の郷里を訪れ休暇を楽しんだと言われています。

フランス、シャンパーニュの恵まれた自然の中で幼少期を過ごし、豊かな感性を育んだルネ・ラリックは、アー・ル・ヌーヴォー期には宝飾作家、アー・ル・デコ期にはガラス工芸作家として二つの異なる分野で頂点を極めた人物として知られています。時代の流れ、芸術の分野が変わっても、「自然」は彼の生涯のテーマでした。ラリックの作品には、その頃出会った自然界のモチーフが数多く登場します。

彼の愛した「自然」、この作品をご覧いただきながら永遠のテーマとして自然とその神秘に対する畏敬の念を抱き続けたルネ・ラリックを思い起こしていただければ幸いです。



開館25周年記念 第57回企画展 収蔵品で語る城郭と考古

2月24日(土)～4月8日(日)

滋賀県立安土城考古博物館

開館から25周年を迎える今年度、マザーレイク滋賀応援寄附金を活用して、収蔵品の徳川家康像と織田信忠像の画像資料2点を修復します。その修復された姿を初公開するとともに、収蔵品のなかから選りすぐった優品を展示します。



徳川家康画像（安土城考古博物館蔵）

入館料：大人500円、高大生300円、小中生無料
休館日：月曜日

■肖像画修理再生フォーラム

3月25日(日) 午後1時30分～4時30分

基調講演

「戦国武将の肖像画」

講師：須藤茂樹氏（四国大学教授）

個別報告

「徳川家康画像・織田信忠画像の修理」

報告：坂田さとこ氏（坂田墨珠堂）

「マザーレイク基金の活用と文化財修理」

報告：井上優氏（滋賀県教育委員会）

「安土城考古博物館所蔵の肖像画」

報告：高木叙子（当館学芸員）

会場：安土城考古博物館セミナールーム

定員：140名（当日受付午後1時～、先着順）

参加費：無料

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

生産されました。本展では、7世紀代の大津宮の時期に操業していた大津市・山ノ神遺跡の出土品について紹介します。

入館料：大人320円、高大生240円、小中生160円

休館日：月曜日、2/13（2/12は開館）

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

湖北の日本遺産

—竹生島と菅浦—

1月20日(土)～2月25日(日)

長浜市長浜城歴史博物館



木造弁才天坐像（宝厳寺蔵）

古くから水の神が宿る島として崇められてきた竹生島と、中世にさかのぼる集落運営のしくみが維持されてきた長浜市西浅井町菅浦が日本遺産に認定されたことを受け、木造弁才天坐像や菅浦文書など、その文化財を紹介します。

入館料：大人400円、小中生200円

休館日：会期中無休

■展示説明会

2月3日(土) 午後1時30分～

会場：長浜城歴史博物館2階展示室

■関連講座「日本遺産 琵琶湖とその水辺景観（仮題）」

2月18日(日) 午後1時30分～

講師：木戸雅寿氏（滋賀県文化財保護課）

会場：湖北文化ホール（長浜市湖北町速水）

参加費：500円（友の会会員は無料）

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

特集陳列 源平布引滝

開催中～2月25日(日)

栗東歴史民俗博物館



「源平布引滝絵看板」
（栗東歴史民俗博物館蔵、滋賀県指定有形文化財『里内文庫資料』のうち）

栗東市手原にゆかりのある浄瑠璃や歌舞伎の作品「源平布引滝」について、手原に生まれた郷土史家・里内勝治郎（1877～1956）が収集した郷土資料のコレクション「里内文庫資料」（滋賀県指定有形文化財）から特集します。

入館料：無料

休館日：月曜日、2/13（2/12は開館）

■講演会「近江の街道と歌舞伎」

2月24日(土) 午後2時～4時

講師：中島誠一氏（長浜市長浜城歴史博物館元館長、長浜市曳山博物館前館長）

定員：80名（当日先着順）

参加費：200円（資料代）

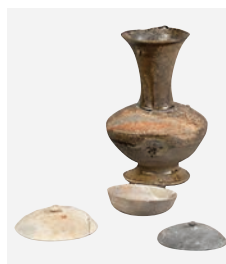
お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

大津の須恵器と生産遺跡

開催中～3月11日(日)

大津市歴史博物館

須恵器は、青灰色に焼き締められた硬質の土器で、古墳時代中頃に朝鮮半島から伝わった技術によって、国内でも多数



須恵器（山ノ神遺跡出土）

新琵琶湖学セミナー

滋賀県立琵琶湖博物館

琵琶湖博物館ブックレットの発行を記念して、著者とそれに関係した研究者をお招きしたセミナーを開催します。琵琶湖で行われているさまざまな研究やその裏話などについて深く学ぶことのできるセミナーです。

琵琶湖博物館ブックレットから 見えてくる研究の新たな展望 (全3回・1日2講演)

第1回

太古の世界を探るさまざまな研究

1月28日(日) 午後1時30分～4時

講師：高橋啓一（琵琶湖博物館副館長）
百原新氏（千葉大学大学院園芸学研究科教授）

第2回

知っているようで知らない 琵琶湖や田んぼの生き物研究

2月25日(日) 午後1時30分～4時

講師：鈴木隆仁（琵琶湖博物館学芸技師）
井上栄壮氏（滋賀県琵琶湖環境科学センター主任研究員）

第3回

びわ湖の魚と私たちの関わりを科学する

3月24日(土) 午後1時30分～4時

講師：松田征也（琵琶湖博物館総括学芸員）
山根猛氏（琵琶湖みらい研究所所長）

場所：琵琶湖博物館 セミナー室

対象：高校生以上

定員：各講70名（1回のみの参加も可能）

※事前申込み必要（各回、定員になり次第受付終了）

参加料：無料

申込方法：しがネット受付サービスの申し込みフォームから、必要事項をお送りください。しがネット受付サービスを利用できない方は、往復はがきに、①参加を希望する日、②参加者全員の氏名、年齢、郵便番号、住所、電話番号、③一言メッセージをご記入の上、下記までお申し込みください。

滋賀県立琵琶湖博物館 新琵琶湖学セミナー係
お問い合わせ／申込先 滋賀県立琵琶湖博物館
〒525-0001 草津市下物町1091
TEL 077 (568) 4811 FAX 077 (568) 4850

戦争遺跡分布調査報告会

滋賀県平和祈念館

第2回

滋賀県に残る日本陸海軍の施設 —大津海軍航空隊—

1月21日(日) 午後1時30分～3時

場所：滋賀県平和祈念館 研修室

参加料：無料

講師：神保忠宏氏（公益財団法人滋賀県文化財保護協会）



アメリカ公文書館所蔵
福林提供

滋賀県内に残る日本陸海軍の施設のうち、比較的当時の施設が残る旧大津海軍航空隊について調査を行いました。その成果や残された資料、今も残る痕跡から当時のすがたの再現を試みます。

第3回

滋賀県戦争遺跡の調査から 米原機関車避難壕の測量調査

2月18日(日) 午後1時30分～3時

場所：滋賀県平和祈念館 研修室

参加料：無料

講師：中井均氏（滋賀県立大学教授）
杉山佳奈氏（滋賀県立大学大学院生）



戦争遺跡としては、滋賀県では八日市飛行場の掩体壕が有名です。今回の調査では、それ以外にも多くの戦争遺跡が残されていることが明らかになりました。そうした戦争遺跡を紹介するとともに、米原市に残る機関車避難壕で実施した測量調査の成果も紹介します。

お問い合わせ先：TEL 0749 (46) 0300

湖北野鳥センター 定例観察会

■山本山のオオワシ観察会

1月21日(日) 午前9時30分～12時

平成10年(1998)の初飛来から、今年で20回目の飛来となった「山本山のおおあちゃん」。大迫力のオオワシを、その生態に関する解説を聞きながら観察してみませんか。



■世界湿地の日記念水鳥観察会

2月4日(日) 午前9時30分～12時30分

ラムサール条約が採択された1971年2月2日を記念して、毎年2月2日は「世界湿地の日(World Wetlands Day)」とされています。その記念行事として開催する水鳥観察会で彼らの生きる琵琶湖を感じましょう。



■湖岸のヤナギ林探検

3月18日(日) 午前9時30分～12時

長浜市の琵琶湖岸にはヨシ原以外に、水辺を好むヤナギが林を形成しています。センター周辺のヤナギ林を探検すれば、意外な発見があるかも!!

事前申し込み：不要

参加費：入館料(大人200円、小中学生100円、
長浜市内の小中学生は無料)

お問い合わせ先：TEL 0749 (79) 1289





近江学 第10号

成安造形大学附属近江学研究所 編・発行
AB判並製本 総96頁 1800円＋税

創刊10号を迎えた今号の特集は「湖と生きる」。日本唯一の湖中の有人島・沖島や、琵琶湖周辺の集落で営まれる暮らし、フナやコアユなどの魚と食文化の現状、琵琶湖を題材とした流行歌、絵画などの成立・創作過程を紹介。

大学生が見た素顔のモンゴル

島村一平 編
A5判並製本 総308頁 3200円＋税

モンゴルに留学した大学生らによる論文集。120頭の馬の毛色を51種類に識別した調査や、幽霊譚から現代モンゴルの世相を探る論考、民族舞踏における「伝統」概念の違い、モンゴル相撲の強さの秘密など10篇を収録する。



アフガニスタン探検記 1975-76

高岡 徹 著
A5判並製本 総280頁 2000円＋税

1975年末、アフガニスタンを訪れた青年は、バーミヤンの仏教遺跡やシルクロードの面影を残す隊商の姿を目の当たりにし、近代化に突き進む国の人々と出会う。ソ連侵攻前のアフガニスタンを縦横無尽に駆け抜ける体当たり旅行記。

世界迷作劇場

津田康洋 著・発行
A5判並製本 総80頁 900円＋税

滋賀県レイカディア大学で児童文学作家の今関信子先生に紙芝居の制作を学び、ボランティアでの紙芝居公演が好評の著者による小断集。中高年の「ひまつぶしの人生」に笑いで善玉菌を育成し、ユーモアとときめきを与える。



表紙写真 山本山のオオワシ (川村 義氏撮影)
足には琵琶湖で捕まえたオコチバス。

編集後記 7ページ掲載の表「オオワシの行動記録」は、湖北野鳥センターのホームページにある「鳥情報」のコーナーで順次更新されたものを見ることができます。本日(1月11日)時点で、取材にうかがった12月7日の部分を改めて見ると、《この日、9時間以上同じ木から動かず(今季No.1長時間)》……。狩りをする彼女の姿を見ることができたあなたは、ラッキーです。



琵琶湖博物館ブックレット5 近江の平成雲根志 — 鉱山・鉱物・奇石 —

福井龍幸 著
A5判並製本 総124頁 1500円＋税

近江には多くの鉱山が存在した。江戸時代の学者・木内石亭が記した『雲根志』にならい、鉱物や奇石などをオールカラーで紹介する。

近江旅の本 滋賀酒 近江の酒蔵めぐり

よいかもい
滋賀の日本酒を愛する酔饗会 編
A5判並製本 総128頁 2000円＋税

名水と好適米、伝統の技で醸す滋賀の日本酒ガイドブック最新版。かくれ里や宿場町、湖畔の酒蔵を訪ね、蔵元イチ押しの酒を味わう。有にぴったり、珍味の取り寄せ情報も掲載。



歌集 鳥越峠

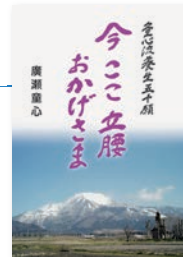
森川幸代 著
A5変形判上製本 総242頁 非売品
問合先 大津市国分1丁目8-11(著者)

ふるさと湖北の地名を冠した『月出峠』に次ぐ第2歌集。「奥美濃と境ふ峠は千メートル振り向けば湖見ゆ街の灯の見ゆ」(鳥越林道・鳥越峠)など721首に湖北の地図を付す。(2017.12.1 刊)

今ここ立腰 おかげさま

どうしんりゅう
童心 養生五十願
りつよう
廣瀬童心 著
A5判並製本 総176頁 非売品
問合先 長浜市新庄寺町100-26(著者)

元中学校教諭である著者が人生を楽しく語る勉強会で年に10ずつ披露してきた養生訓が50となったのを機にまとめた。(2018.1.1 刊)



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet 編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。
<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先